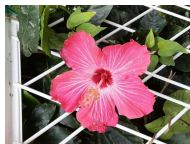


## 『風は南から』

令和7年度 校長室便り  
(1月29日)(第23号)



## 「臨界点」まで「あと一息」

早いもので年が明けてから1ヶ月が過ぎようとしています。新年を迎えるにあたり自分で立てた目標も、あきらめかけてはいないでしょうか？せっかく続けてきたのに結果が出ないからとやめてしまっは、昨年と同じ。もう少し続けてみる必要があります。

英語のリスニングも聞き始めの頃は意味の分からない音の連続だったものが、ある日を起点に「あれ、わかる」という時がきます。これを「臨界点 (Critical Point)」, 学習においては「Breakthrough」とも言います。停滞期を超えて急成長するポイントです。水面下で進んでいた努力がようやく目にみえる形になってきたと実感できる時です。せっかく泳ぎ続けてきたのに、川から大海原に出ようとする地点で引き返してしまっはもったいない。「あと一息」続けてみましょう。3年生の皆さん、これからの1ヶ月で加速的に成長できます。自分を信じて続けてください。

## 2年普通科「せりよさ」第3回合同授業



1月26日(月) 5・6限目に2年生普通科「せりよさ(総合的な探究の時間)」の第3回オンライン合同授業を行いました。今回は北海道鹿追高等学校、山形県立新庄南高等学校金山校、そして本校の3校約91名で実施しました。最初に簡単な学校紹介や自己紹介の後、グループ毎に自分達の探究活動の発表をし、他の生徒から質問や意見をもらっていました。

「寝る向きによって夢の内容は変わるのか」「写真は撮り方によってどう変わるのか」「ブルーライトと睡眠の関係について」「不快な音」「人気のお菓子」「誰でも簡単詐欺グラフ」等、テーマも多彩で面白い内容です。2月25日(水)の「成果発表会(ポスターセッション)」を楽しみにしています。

## 「冲高同窓会総会・懇親会」



1月24日(土) 知名町フローラル館にて令和8年「冲高同窓会総会・懇親会」が盛大に開催されました。今年は島内から140名の参加がありました。コロナ禍以前は、約200名が集まっていたそうです。

6時半から総会が始まり、懇親会ではエイサー部が見事な演舞を披露し、会場を盛り上げてくれました。その後、琉球舞踊や「えらぶのネーネーズ」や「ゆーはらんばんど」の出し物が続き、21時まであっという間に時が過ぎ、最後は、「えらぶ百合の花」と「サイサイ節」の総踊りで幕を閉じました。年に1回同窓生が顔を合わせて近況報告や昔話に花を咲かせ、学校側も近況を知ってもらい、支援がいただける機会があることは、本当にありがたいことだと改めて実感しました。皆さんも卒業後はぜひ参加してください。

## 3年生「共通テスト」へ向けて出発



1月15日(木) 3限目に「大学入学共通テスト」に向かう3年生のための出発式を行いました。最初に私が、ジョギングの経験から禅宗の言葉「看脚下」という話をしました。長い距離を走っているときつくて目線が下がりがちにはなりませんが、悪いことばかりではありません。気がつけばゴールはもうそこまで来ているということがあります。「看脚下」とは、不安になる時は自分の足下



だけを見ること、目の前のことにだけに集中することが大切だという意味です。3年生の皆さん、ほどよい緊張感を持って目の前の問題1つ1つに集中して取り組み、振り返らず常に次へ向けて意識を集中してくださいね。次に学年主任の宮脇先生からは、何か不安なことがあれば、引率の4人の先生方に相談すること、共通テストだけに集中しようという話がありました。

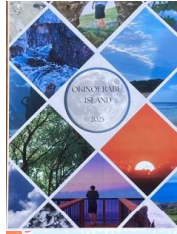
そして、13:30に和泊港に全員集合。生徒を代表して吉田さんが「これまで勉強してきたことが全て出せるように頑張ります」と保護者に向けて挨拶しました。好天にも恵まれ、21名が元気に出発していきました。

## 3年商業科「課題研究」発表会



1月23日(金) 5・6限目に3年商業科の「課題研究」発表会を武道館で実施しました。毎年この時期に、「課題研究」の授業ではどのような研究を行っているのかを1・2年生に知ってもらうために、3年生が1年間の取組を発表してくれます。

今年は、自分の進路選択のために定期的に保育園ヘインターンシップを行ったり、得意な料理を通して島の振興を試みたり、島の観光名所を巡って写真を撮影し観光マップを作成したりと、個人研究からグループ研究まで内容が多種多様で、どれも大変興味深い発表ばかりでした。



その中でも、知名町役場と連携し、ジャガイモのマスコットキャラクターを作成し、島外にジャガイモ出荷するJAの段ボール箱に掲載したり、シールとして小中学校に配布したりする段階までご付けた取組は圧巻でした。高校生の熱意が周りの大人を動かし、自分達の考えが現実になっていく過程を体験できたことは、将来において必ず役に立つ経験だったと思います。

1・2年生の皆さんも今回の発表を参考に、自分のやりたい研究を考えて早めに動き出してください。